

株式会社ジェイコム湘南・神奈川

湘南・鎌倉局および横須賀局 2局合同

2021年度 放送番組審議会 議事録

2021年度の放送番組審議会は、2022年3月25日(金)に開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

稲岡 輝雄 様	永妻 和子 様	堀 一久 様
堀江 敏 様	山田 秀幸 様	

事業者側から局の現況に加え、J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)、および昨年度の放送番組審議会で審議された内容に対する改善点について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(山田会長による進行)

委員 新しく J:COM LINK mini がサービス開始となったとのことだが、現在のテレビチューナー(STB)の他に、追加で契約が必要なのか。

事業者 J:COM LINK mini の機器がターミナルの代わりにもなりうる。インターネットと LINK mini をご契約いただくと、テレビで J:COM のビデオオンデマンドサービスなどのインターネット動画を見ることができ、インターネットの機能を一部代替できる。

委員 最近のテレビ本体にも J:COM LINK mini のような機能はついているのではないか。

事業者 最近のテレビには同様の機能がついている。J:COM の強みは、J:COM 独自のビデオオンデマンドの作品数が多く、また Netflix を J:COM 経由でテレビの大画面で見られるという点である。

委員 サービス加入率の数字を客観的にどのように評価しているか、また現状 J:COM が抱えている課題をお伺いしたい。また、課題を解決するための中長期的な計画があれば教えてほしい。

事業者 現状インターネット・モバイル・電力の加入者は増えているが、テレビの加入者は減少傾向にある。インターネットがあれば十分だという世代もあり、WEB テレビのニーズが高いのも特徴的である。そもそもコミュニティチャンネルを見てもらうことがケーブルテレビの使命であるが、世間はそういった番組を見ないという方向に変化してきている。このような顧客をどのように変えていくかが課題である。またインターネットは速度の競争が激しく、現在当社がメインで展開している速度は 1G であるが、5G・10G などさらなる高速化が求められていくこともこれからの課題である。

委員 加入者数の伸びについて、全国規模でもベストテンに入るとのことだが、上位に入る自治体の特徴と、ジェイコム湘南・神奈川のエリアの自治体との違いを教えてください。またこの2年間はコロナの影響によって、今まで右肩上がりだった加入者数にも変化があると思われるので、今後のジェイコム湘南・神奈川としての方向性やこれからの新しい展開があればお伺いしたい。

事業者 横須賀エリアは、山や海といった地形の問題で電波障害のエリアが比較的多いため、加入者が特に多い。また 1991 年頃からと局の歴史が古く、昔から地元根付いている加入者も多いという状況もある。今後は新しいサービスを投入した際に世の中に受け入れられるか、ニーズに合っているかを考えなければいけない。映像をインターネットやスマホで見る機会が増えており、インターネットの加入者数も増加している。インターネットのニーズがテレビのニーズを追い越した際に、当社としてどんな対策を取るか、将来的に考える必要がある。

委員 最近では東京電力も値下げをしており、お客様が戻っている傾向もあるが、J:COM として電力サービスはさらに拡大を続けていくのか。

事業者 世間では新電力の会社がどんどん潰れたり、値上げしたりしている。J:COM 自体の経営は問題ないが、仕入れ先であるサミットエナジーの状況がどうなっていくか次第である。J:COM にとってはあまり大きなリスクはない状況のため、今後も拡大していくと考えられる。

委員 3月11日の震災事業について NHK から取材を受けた際、放送予定日が事前に関係者に知らされなかったため、逗子市役所へ報告ができなかった。J:COM は取材の際に、放送予定日を主催者に提供しているのか。

事業者 取材をする際には、放送予定日を記載した案内の紙を用意し、関係者の方にお渡ししている。その紙にはコミュニティチャンネルの放送予定日だけではなく、地域情報アプリ「ど・ろーかる」での視聴方法も記載しており、J:COM 非加入者やエリア外の人

でも視聴できるようになっている。

事業者 基本的には関係者の方には放送予定をお伝えてしているが、今一度徹底させるよう社内周知する。

委員 新番組「LIVE ニュース」は非常に良いと思う。茅ヶ崎以外の情報も入ってくる。色々な情報があると番組を見るのが楽しみになるので、引き続き継続してほしい。

委員 昨今は災害が多く、先日も地震があった。またウクライナのニュースのような世情を煽るようなことも、メディアとして正しく伝えることが重要だと考える。まだまだコロナに関しても気が抜けない状況である。災害や感染症対策、世界情勢などの視聴者の関心が高い情報を発信する際に、誰が見てもわかりやすく伝わるように心掛けていることはあるのか。

事業者 まず文字の大きさや実際のテレビ画面での見やすさなど基本的な部分に気を付けている。また専門用語を視聴者が理解できるのか、一度立ち止まってから番組を作るように常々注意を払っている。日々番組制作をしていると、どうしても当たり前という感覚が生まれてしまうため、改めて注意していきたい。

委員 年々地域コミュニティメディアとしての奥深さが増しており、ますます筋肉質なメディアになってきていると感銘を受けている。その上で地域情報を発信する時に、行政や市政が何を考えているのか、政策が市民にとってどのような影響を与えるのかという解説機能があるとより良いメディアになると思う。私自身、商工会という立場を通して初めて意味を理解することも多い。市民に関心を持ってもらうためには、どのように発信するべきかを突き詰めてほしい。

事業者 「LIVE ニュース」や「WEEKLY ピックス」にはそれぞれ番組コンセプトがあり、各制作スタッフが付加価値をつけて提供できるよう努めている。視聴者にとって何が有益なのか、ということ念頭に制作することが重要だとは思っているので今後意識していきたい。

委員 先日の地震の際にレディオ湘南では割り込み放送を行ったが、J:COM では割り込み放送はできるのか。

事業者 割り込み放送は技術的には可能である。L字のテロップを出すのか、番組スタジオを開けるのかは災害規模によって対応を変更する。現状では、災害時に避難情報がL字のテロップで出るような仕組みになっている。

委員 災害情報は市役所と連携を取っているか

事業者 各市役所の防災課と連携を取っている。

委員 藤沢市議会はYouTube 配信を行っている。市議会の模様をJ:COMで放映するのは難しいのか。

事業者 放映することは技術的に可能であるが、契約の部分の話になってくる。

委員 「居酒屋石ちゃん」は決まった店舗で収録しているのか。また、番組内でその店の紹介を行っているのか。

事業者 先日は大船にある飲食店で撮影した。あくまでも場所を提供いただいているので、「居酒屋石ちゃん」の番組内では紹介は行っていない。

事業者 委員の皆さまからのご意見、活発な審議ありがとうございました。今後の番組の制作に役立てていきたいと思えます。

以上